

「運動会が終わったから気兼ねなくできる！」朝、運動場からそんな声が聞こえてきた。昨日まで運動場には運動会のラインが引かれていた。そんなラインを消さないように、気を遣ってくれていたようだ▼運動会が無事終わった。観覧していただいた保護者・地域みなさんありがとうございました。本番の競技の迫力、演技の完成度はライブで見てこそその躍動感や臨場感がある。これまでの練習で積み上げてきた練習に裏打ちされた「自信」＋「α」により子どもは十分力を出し切った。たくさんの人が見ている。緊張するが、観客の「応援」の「力」は大きい▼その一方、運動会の進行と運営を支えた高学年にも目を向けたい。大木の見えない根が深いように、行事も大きければ大きいほど、見えない下支えの力は大きい。43号で紹介した4年生を中心にした運動場の草取りチームは、「グラスバスターズ」と名付けた。おかげでトラックとフィールドの草は目に見えて減った▼6年生は運動会の準備や縦割り班競技の内容、当日の係の仕事等、あらゆる場面で活躍した。5年生にとっては、6年生は身近であるけれども「憧れ」。来年はわたしたちの番だと、作文に綴っている。5・6年の係の仕事は、見ていてとてもすがすがしかった。ロスがなかった▼子どもたちが創り上げた運動会と言ってよい。子どもも教師も心を燃やした。笑顔で終わった。